

令和元年度 長与北小学校 学校評価(年間)

○前期 保護者・職員・児童・地域アンケート実施期間 令和元年7月5日～17日
 ○後期 保護者・職員・児童・地域アンケート実施期間 令和元年12月12日～25日

<評価規準> 4 そう思う(100%-90%) 3 だいたいそう思う(89%-75%) 2 あまりそう思わない(74%-50%) 1 そう思わない(49%-0%)

項目	重点目標	児童		保護者		地域		職員		自己評価についての説明	学校関係者評価者による意見等			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
心の豊かさ と自ら学ぶ力を 育てる 学校教育の充実	1 豊かな心の育成													
	①いじめ不登校への適切な対応	①子どもは、いろいろな相談を家族や先生に相談している。	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	3.1	3.0	○現在、本校でいじめが全くないというわけではないが、トラブルが小さいうちに解決するよう、アンケートや個人面談、日記等で児童の内面把握に努めている。また、週1回のなかよしタイムや縦割り遠足、縦割り給食、児童集会等で、異学年との交流や絆が深まるよう計画的に実践していることが結果として表れている。 ○大人に相談する児童が少なくなってきたように感じる。→相談しやすい環境づくりに努める。 ○週1時間の道徳の授業を大切にしながら、子どもの心に響く教材の選定をし、学校生活全体で子どもの道徳的実践力向上に努めている。また、週2回の読書タイムだけではなく、隙間読書を励行したり、読書週間の取組を活性化したりすることで、本に親しむ子どもになるよう指導している。しかし、家庭ではなかなか読書の時間が設定できないという実態が結果として表れている。	○校内では仲良くしているようであるが、校外ではそうでもないようである。学校外での異学年交流は、男子はよくあるようであるが女子はそうでもない。子ども会等での様子を見ていると、上級生が下級生の世話を責任もってする姿が見られるので、学校での縦割り活動の成果が出ているようである。 ○道徳や、人権平和教育の推進に関しては、日々の生活から学ばせていく必要がある。読書活動に関しては、家庭で読書する時間が取れていない実態があるようである。		
		②先生は、子どものまちがった行動には、厳しく指導してくれる。	3.8	3.6	3.2	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4				
		③学校は、児童理解やいじめの実態把握に努め、スクールカウンセラーや相談員との連携を図り、個に応じた指導を行っている。	3.5	3.5	3.0	3.0	3.2	3.2	3.5	3.4				
	②道徳教育の充実	①子どもは、社会的ルールやマナーが身についている。	3.3	3.2	3.1	3.0	3.1	3.1	2.7	2.7				
		②子どもは、元気に挨拶をして生活している。	3.5	3.4	3.2	3.0	3.0	3.0	2.5	2.4				
		③子どもは本を読む習慣が身についている。	3.2	2.9	2.7	2.7	2.6	2.6	2.7	2.9				
	2 基礎学力の充実													
	①少人数授業の推進	①子どもは、授業がわかりやすいと言っている。	3.1	3.3	3.0	3.0	2.7	2.7	2.8	2.8			○気になる児童の情報交換を、毎学期定期的に行い、児童の顔写真とともに、配慮すべき点や指導する際に気をつけることなど、共通理解をしたうえで指導にあたっている。 ○職員の満足度は「結果を出す」ことだと感じている職員が多く、結果がまだ足りないと判断しているようだ。→学習姿勢の徹底を図っていく。	○1年間を通して、宿題等よく考えて出している。先生方はしっかり教えてくださっており、適切な評価である。校長先生をはじめ、担任の先生からの継続した宿題のおかげで、少しずつ、かしくなっていると思う。 ○室内でできる、小さなゲーム機のせいか、姿勢が悪いと感じる子は増えていると思う。
		②子どもは、学習規律(正しい姿勢、最後まで話を聞く等)が身についている。	3.1	2.9	2.9	2.9	3.0	3.0	2.5	2.6				
③子どもは、自分の考えを表現できている。		3.1	3.3	2.9	2.9	3.0	3.0	2.6	2.6					
②学習習慣の定着	①子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	3.6	3.4	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0					
3 健康安全教育の推進														
①基礎体力の向上	①子どもは、体育の学習や昼休み、課外スポーツ等で、進んで体力づくりに励んでいる。	3.4	3.4	3.1	3.2	3.5	3.5	3.1	3.1	○安全指導について職員は「危険」と感じることもあるようだ。→体幹を鍛える必要がある。 ○学校生活の中で「朝食について」指導が必要であると感じている。→家庭における取組については、呼びかけを続ける。 ○インフルエンザ等の流行は見られなかった。年間を通して、予防のために手洗いうがいの励行を継続的に行ってきたことと、保護者の対応の速さが功を奏した。	○持久走大会・北小ファイトは、ずっと以前からのたいへんよい取組であるので、これからも続けてほしい。 ○インフルエンザが蔓延しなくてよかった。日頃の指導のおかげ。適切な評価である。			
	③子どもは、安全に気をつけて生活している。	3.8	3.7	3.3	3.2	3.2	3.2	3.0	2.8					
②早起き・朝ご飯	①子どもは、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身についている。	3.1	3.2	3.1	3.0	3.1	3.1	2.8	3.0					

学校関係者による評価3.3

学校関係者による評価3.0

学校関係者による評価3.2

項目	重点目標	児童		保護者		地域		職員		自己評価についての説明	学校関係者評価者による意見等		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
心の豊かさや自ら学ぶ力を育てる学校教育の充実	4 特別支援教育の充実												
	①一人一人に合わせた支援	①学校は、一人一人の子どもを大切にしたい。きめ細かな指導・支援を推進している。	3.6	3.3	3.0	3.0	3.3	3.3	3.3	3.2	○保護者からの評価は、児童や教師の評価に比べやや低いのだが、個に応じた対応はできていると児童も認めている。学校の取組が保護者へ伝わるよう、今後も通信やホームページ等で、丁寧な説明の機会を作っていく。 ○自尊感情が高まるような学校行事・学年行事になっている。「北小子ども祭り」での生き生きとした子どもたちの姿に感動した。	学校関係者による評価3.3	
	②充実組織的	②子どもは、好ましい友達関係を築き、楽しく登校している。	3.6	3.6	3.4	3.3	3.2	3.2	3.1	3.2			
	5 国際化への対応												
	教育外国の充	①学校は、外国語指導助手(ALT)を活用した外国語学習を行い、外国語を用いたふれあいや対話の機会を取り入れている。	3.5	3.6	3.1	3.1	3.2	3.2	3.2	3.3	○外国語活動についての保護者理解が低い気がする。→広報活動に努める。 ○総合的な学習の時間や生活科など、地域人材の活用を積極的に推進していること、PTA活動が活発になるように、育友会本部を中心に連携を深めていることが結果に表れている。	○保護者の数値は児童に比べ、低いと感じた。積極的に外国語活動をアピールする必要がある。 ○この地域は、児童がかかわって伝統文化の継承を行う機会が多くあるので、妥当な評価である。これからも地域と共に、関係者である私たちも北小の児童に支援していく。	学校関係者による評価3.3
	統地域文化の理	②学校は、全ての教育活動を通じて、地域の伝統行事などの体験的な学習や課題学習を取り入れて、主体的に行動するために必要な態度・能力を育てている。	3.0	2.8	3.3	3.3	3.5	3.5	3.3	3.3			
	6 教育環境の整備												
	掃除の徹底	①学校の教室や廊下の掲示物は良く工夫されている。	3.4	3.1	3.1	3.3	3.5	3.5	3.0	3.0	○清掃活動についてまだ不十分と判断している。→古くてもきれいな学校を心掛け、掃除に取り組ませる。 ○毎日の校舎内巡視や毎月1回の安全点検を確実に実施し、危険箇所の早期発見早期対応につなげている。しかし、校舎の老朽化を感じている保護者が多いようである。また、栽培委員会を中心に、花壇等に花を欠かさないように努めていることが、環境美化の項目の結果に表れている。 ○学校日より、各学年日よりなど、数多く発行した。学級日よりは取組に差があるが、定期的に発行できた。今後さらに学校の広報活動の充実を図る必要がある。	○校内に花がいつもあるので、心が安らぐ。また、エアコン設置があり、子どもたちも快適に過ごせていると思う。保護者のなかには、古くなった校舎を見た目で判断している人もいようである。校舎の老朽化した箇所に関しては、改善が必要である。また、雨漏りについては、今後も修繕の要望を続けていってほしい。	学校関係者による評価3.3
		②子どもは、もくもく掃除に取り組んでいる。	3.3	3.2	3.0	3.1	3.6	3.6	2.9	2.9			
		校舎内外の環境	①学校は、草刈りや剪定、花いっぱいに取り組み、校舎内外の環境美化に努めている。	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3			
②学校は、学校・学級日より、ホームページによる広報活動の充実を図っている。			3.4	3.3	3.1	3.1	3.3	3.3	3.1	3.0			
7 教職員の資質向上													
授業力の向上	①学校は、電子黒板やコンピューターなどのICT機器の活用を推進し、教育効果を高める工夫を行っている。	3.5	3.6	3.1	3.1	3.3	3.3	3.4	3.3	○「学校は、責任と使命を自覚し、一致団結して教育に取り組んでいる」では、全体的に高い数値である。→今後も職員一体となった取組を企画運営していく。 ○校内研修において、児童の発達段階に応じた手立てを取っていることが、学習規律の定着につながっている。また、分かりやすい授業を展開するために、同学年で足並みを揃えた教材研究を行うとともに、児童のつぶやきや意見等をすすんで取り上げ、達成感を得られるように仕組んでいる。日々の授業実践が、結果として表れている。 ○総合的な学習の時間や生活科など、地域人材の活用を積極的に推進していること、PTA活動が活発になるように、育友会本部を中心に、連携を深めていることが結果に表れている。	○保護者は子どもの声で、「楽しい」「よくわかる」などの評価をしているので、この評価は、授業参観等だけではない。だからこそ、子どもたちが「わかった」という授業を心掛けてほしい。 ○地域人材の活用及び育友会等との連携については、妥当な評価である。	学校関係者による評価3.4	
	②先生は、子ども一人ひとりの力を伸ばす授業を行っている。	3.5	3.3	3.2	3.1	3.3	3.3	3.3	3.3				
	力、地域との協	先生は、学級日よりや連絡帳、懇談会、会話の中で子どもの様子について伝えている。	3.1	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.4				3.4
		先生は、子どもや家庭からの相談や意見、要望に親身になって対応している。	3.4	3.1	3.1	3.2	3.1	3.1	3.3				3.4
	学校は、責任と使命を自覚し、一致団結して教育に取り組んでいる。	3.6	3.4	3.3	3.2	3.5	3.5	3.5	3.3				
平均		3.4	3.3	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1				